

令和4年度 看護学科学修成果に関する
卒業時アンケート調査結果報告書（抜粋）

令和5年3月

浜松医科大学 IR 室（教学部門）

看護学科学修成果に関する卒業時アンケート調査結果報告

1. 調査の目的

令和4年（2022年度）看護学科4年次生を対象に、ディプロマ・ポリシー（DP, 卒業認定・学位授与の方針）に定める学修成果が獲得できているか、自己評価アンケートにより検証を行う。そして、その結果から、教育プログラムにおける問題点や改善点の示唆を得る。

2. 調査方法等の概要

- ・ 調査対象 令和4年度（2022年度）看護学科4年次生 67名
- ・ 調査方法 Webアンケート／無記名調査
- ・ 調査期間 令和4年（2022年）12月23日～令和5年（2023年）3月13日正午
有効回答数 26件（有効回答率38.8%）

1. ディプロマ・ポリシーにおける5段階評価

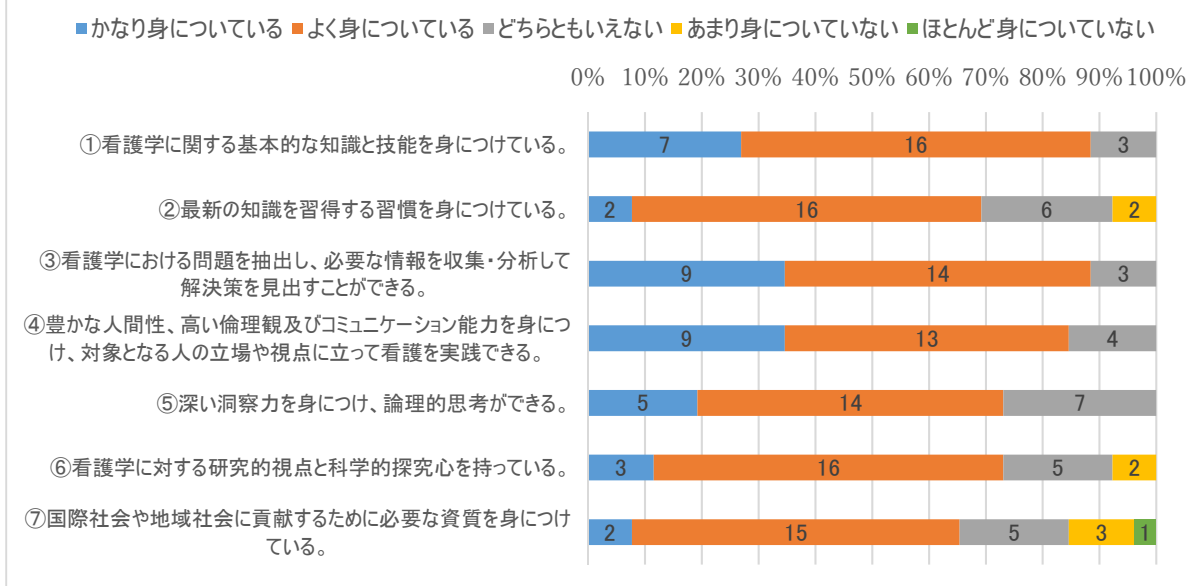
ディプロマ・ポリシーに定める下記の7項目に関して、5段階尺度で質問を行った。

- ① 看護学に関する基本的な知識と技能を身につけている。
- ② 最新の知識を習得する習慣を身につけている。
- ③ 看護学における問題を抽出し、必要な情報を収集・分析して解決策を見出すことができる。
- ④ 豊かな人間性、高い倫理観及びコミュニケーション能力を身につけ、対象となる人の立場や視点に立って看護を実践できる。
- ⑤ 深い洞察力を身につけ、論理的思考ができる。
- ⑥ 看護学に対する研究的視点と科学的探究心を持っている。
- ⑦ 国際社会や地域社会に貢献するために必要な資質を身につけている。

“かなり身につけている”及び“よく身につけている”の回答が最も多かったのは、①「看護学に関する基本的な知識と技能を身につけている。」と③「看護学における問題を抽出し、必要な情報を収集・分析して解決策を見出すことができる。」であった。②「最新の知識を習得する習慣を身につけている。」に関しては“かなり身につけている”と“よく身につけている”を選んだ学生の割合が約7割を占め、前回（令和2年度）の約5割と比較し、修得度の向上がうかがえる。一方、⑦「国際社会や地域社会に貢献するために必要な資質を身につけている。」の項目では、“ほとんど身につけていない”を選んだ学生がおり、他の設問よりも到達度の自己評価が低い傾向が見出された。全体の傾向としては、前回（令和2年度）卒業生よりも、修得度の自己評価が上がっていることが見出された。

(図1) ディプロマポリシー7項目における5段階評価

(n=26)



2. 浜松医科大学看護学科の教育満足度

看護学科での4年間の教育について、満足度を5段階尺度で尋ねた。回答件数は9で、満足度の平均は4.19であり、前回（令和2年度）実施時の3.70（回答件数45）を上回る結果となった。また、回答内訳は図2のとおりである。最高値5点と評価するものが、前回は4名（8.8%）のみだったが、今回（令和4年度）は、10人（38.4%）に増加している。

評価の平均値 4.19 （回答件数：26）

（図2）教育についての満足度の回答内訳（n=26）

